

| (水) | 1日(木) | 2日(金) | 3日(土) | 4日(日) |
|--|---|---|---|---|
| <p>ーラム (WE各差報告) をジュネーブ) 造業購買担当 (北京) シア極東サハらの引き揚げ「全国樺太連(京都)</p> | <p>▽店頭での価格に消費税込みの総額表示を義務付け ▽3月の企業短期経済観測調査=短観(日銀) ▽香港デモの違法集会参加罪で黎智英氏、李柱銘氏ら民主派重鎮に判決 ▽国内で開発されたブランド果実などの種や苗木を海外へ不正に持ち出すことを禁じる「改正種苗法」が施行</p> | <p>▽国民民主党大会(東京都) ▽3月の米雇用統計(ワシントン)</p> | <p>▽競泳 日本選手権兼東京五輪代表選考会(〜10日、東京アクアティクスセンター) ▽柔道 全日本選抜体重別選手権(〜4日、福岡国際センター) ▽ソフトボール 日本リーグ女子が開幕(栃木県総合運動公園野球場ほか)</p> | <p>▽知事選=秋田 ▽県庁所在地市長選=秋田 ▽バレーボール Vリーグ1部プレーオフ男子決勝(船橋市総合体育館) ▽競馬 大阪杯(阪神)</p> <p>◇おことわり 新型コロナウイルスの影響などで、予定が変更になる可能性があります。</p> |

古くて、新しい

マルニ西脇(妙高市)

■ 4 ■

こだわりは客のため

2000年代、アパレル産業は転換期にあった。低価格と高品質の両立を図った「ユニクロ」の勢いは加速し、「H&M」「ZARA」といったファストファッションの海外ブランドも国内で台頭した。

「ふるいに掛けられたところではない。竜巻が起きたかのようにだった」とマルニ西脇(妙高市)の西脇謙吾社長(52)

時代とともに
にいがた企業ヒストリー
Niigata

は述懐する。付き合いの長かった卸業者の事業縮小や、廃業が相次いだ。

そうした中でマルニは、1990年代から手掛ける自社製ジーンズの強みを徐々に高めていた。従来の流通構造も変化が進み、ジーンズ以外の商品開発にも着手しやすい環境が整っていった。

業界を取り巻く嵐のさな

感染禍に耐え 深まる藍色



自社製ジーンズの「雪さらし」。デニムの素材感を際立たせるため、毎年1〜3月、約500本をさらす=妙高市姫川原

か、2006年に謙吾氏が「想定外」と語るオフアアが届いた。東京・日本橋の老舗百貨店。ある日訪れた老舗の男性事出店の誘いだった。当時、客は売り場を見渡すと、「ど客との接点は地元2店舗と通信販売に限られていた。戸惑いながらも承諾した。「知名度のないミュージシャンが路上で歌うような心境だった」と振り返る。

こだわりを詰め込んだ「作品」は、百貨店の目利きの顧客に響いた。初出店は遠く離れた広島。好評を博し、その後首都圏の百貨店から次々とオフアアが舞い込むようになった。ともすれば、自分本位の厚い信頼を感じた。

個々の客の顔を想像した上でものづくりをし、提案していく商売の本質にも気が付かされた。「商品へのこだわりって、お客さんのためにあるも



「インターネットの時代だが、お客さまとの結び付きは対面で行っていき」と語るマルニ西脇の西脇謙吾社長

位に陥りがちとなる仕事への姿勢を正される思いだった。「兄ちゃん、これだ」。先代の父正信氏が客をつぶさに観察し、確信を持ってジーンズを勧めた姿を思い出した。

09年、アパレル産業の淘汰が進む時代を戦国の乱世になぞらえ、地元の武將上杉謙信にあやかた「毘沙門天ジーンズ」をリリースした。バックラベルには「毘」の文字。尻ポケットには刀を模したステッチを施した。

特注のデニム素材は、色が抜けにくい天然藍で染めた縦糸で仕上げた。店頭で拾う顧客の声を、細かなボタン、縫製など随所に生かした。年間約4千本を売り上げるマルニの代表モデルに育った。

そして現在。新型コロナウイルス禍、「不要不急」が叫ばれる中で、アパレル産業は窮地に立たされる。百貨店の催事は軒並み中止となり、マルニは一時売り上げが半減するほどの打撃を受けた。

謙吾氏は、稼働率の低下に悩む工場に好機を見いだし、動いた。生成り色が一般的なデニム生地と異なり、「高貴」の象徴だったパープル色を使

用。長年温めていたアイデアだ。横糸の変更は調整に時間と手間を要するが、ウイルス禍の工場では喜ばれた。「ロイヤルパープルデニム」は昨秋に発売し、顧客に新たな価値を示した。

自社製品の売り上げは現在、全体の7割を占める。シヤツやダウンジャケット、スニーカーなど品目は多岐にわたる。謙吾氏がデザイン、仕様を練り、県外で加工された商品は、最終的な仕上げを妙高で行う。

2月のよく晴れた日、地下に漬けたジーンズの藍色が雪上で映えた。麻織物「小千谷縮」の工程をヒントにした「雪さらし」。一手間を加えた一本は藍色が深まり、肌触りが高まる。

そして、「雪国発」という物語がジーンズに織り込まれる。謙吾氏は「先代から積み重ねた物語がある。ここです。か提供できない一本を提供したい」とかみしめる。故に学び、新しさをまといながら、マルニジーンズの味は深まっていく。

おわり (この連載は上越支社・渡辺伸也が担当しました)